

世界水なし印刷大会の開催日が変更

Currentの1月号で開催日を通告した後、EWPAの理事会で開催日の変更申し出があり、5月16日から5月12日に変更となった。

Printing Worldのバタフライの記事が水なし印刷を勇気づける

英国の印刷業界紙が始めて、水なし印刷協会のバタフライロゴを環境ブランドとして認知してくれた。2004年1月8日号、英国で発行されている週刊業界紙Printing Worldの技術編集長Rod Hayesが「バタフライ・ロゴ」の題名にて、分析のヘッドラインページで発表してくれた。

その本文を下に引用させていただく。これは見出し「自然への前進」と銘打って取り上げてくれ、WPAの会員諸氏にもご注目と喚起をいただきたい。

この鮮やかな原色蝶々は環境に良いものの象徴と真髄であろう。おおかばまだら以上に環境に敏感な蝶々も何種かはいようが、虎が強者と自由と言う感覚なら、これは日影の隠れた場所、小川のせせらぎ、雲ひとつない空と言うことであろう。

国際的なロゴ

やがて、おおかばまだらの画像をもっと、見るようになる。これは水なし印刷協会の会員に広く採用されているからだ。

多分既に見られた方も多かる。日本製のカメラ、ゲーム機をクリスマスプレゼントとかで手に入れたら、その箱のどこかに蝶々があしらわれている。

すごい量のパッケージングが日本から発送され、米国とスカンジナビアでも水なし印刷を行っていて、日本企業では環境マニュアルがこれをつけて印刷されている。

日本では環境報告書に蝶々ロゴがあしらわれていないと、気恥ずかしい感じにもなる。ロゴを使うとは一種の誇りであり、ビジネスとして稼げることでもあり、環境対応上の感心をそそるものとなっている。

この使い方はリサイクル紙と抱き合わされて使われたりするが、協会はこのロゴは独自のものとしている。驚くことではないが、ヨーロッパではこのロゴはスカンジナビア諸国で広く使われているが、ここでは水の使用がヨーロッパの中では、法律で一番厳格に管理運用されている。

誰が面倒を見る？

英国ではごくわずかな会社でしか、水なしを使っていないが、誰がバタフライロゴの面倒を見るのか？

その答えは 2 通りあろう。まず、印刷発注者はその工程をほとんど知らず、多分見向きも薄だろうが、水の問題が日本やスエーデンなどのように社会関心事となればもっと喚起されてくる。人々はこのロゴをなぜつけていると問い始め、水と印刷現場の問題に気がついてこよう。印刷する上でアルコールや他の環境阻害品の使用に気づくのに、それほど時間はかかるまい。

次に、販売ツールとして使いたい印刷会社は、自らの成長のためだけでなく、その利益性に注目するだろう。日本 WPA の披露した数字では 2002 年、通常方式の印刷会社の一人頭の売上額は 2840 万円であるが、水なし印刷業者のそれは 3800 万円であった。

2004 年に変化

2004 年が違うのは、水なし印刷物を購入したがる潜在力がかなり広がってくるのではないかと。

今現在の数字は少ないが、ハイデルベルグクイックマスター DI、46Karat、74Karat それに、リョービ 3304DI 機が勢いをつけてきている。今年こそ、従来印刷業者がこれら機械を脅威か、機械と見分ける分水嶺となるのではないかと。協会がダイナミックな象徴的なロゴを採用し、活動して 3 年、それが日本で、米国で実証されていて、それは印刷会社の強烈な販売ツールとなっている。

このロゴの最初使い出した方は製品メリットを特別に説得できるものではなかったのだ。

環境の法律

しかし、今日ではほとんどの国で厳しい環境法律が施行されてきて、オフセット印刷そのものへ打撃を与えようとしている。これらに加え、グリーン購入なる購買のグループが実力をつけてきて、これが印刷界にある種、強烈なこん棒を突きつけている。ここでは、銀行がローンの与信基準をポイント制で運用するように、印刷発注者は自分の印刷物がどのように作られているか、ポイント制で審査してみようとする。偶然かもしれないが、英国政府、地方行政当局はこの動きをしだし、バタフライロゴを使用することが一つの焦点となってこよう。

こう考えたらどうだろう。74Karat の所有者が顧客から印刷の注文を取った。そのことは取り立てて重要でもないが、顧客は彼の印刷物にバタフライロゴを付けられるのだ。(顧客は環境協力の意思表示ができるようになる)

環境ブランドの輪

良い意味のブランド趣向の輪が急速に起きてきている。印刷顧客は環境とその対策を考えてくれる誰かと手を組みたがっている。それはコスト負担にもならず、水なし印刷の本質を取り入れるだけで、品質面の向上も図れるのだ。

この輪は印刷会社から外に向けて動き出し、印刷発注者がそのロゴを説明するようになる。これこそがこのロゴを使う意義なのだ。私も乗らねば、という要素もあろうが、これは従

来印刷の業者が眠っている間に、水なし印刷業者が攻めている真髄なのだ。水なし印刷協会はプレステックとか、東レの版を問わず、特権階級でもなければ、ただ、水なしを印刷している方が会員資格となれる。

要約

- ・ 水なしロゴが英国で現れ出した。
- ・ 水なし印刷業者は利益を上げている。
- ・ プレステック、東レがこの協会を支持している。

この記事は [Printing World2004.01.08](#) 号に掲載されました。

G8 サミットで安全水に焦点

フランスのエピアンでの最近の G8 サミットでは他の議題に交え、安全な水が行き渡らない世界の市民 15 億人にどのように供給するかが討議された。

ミハイル・ゴルバチョフがきれいな水こそ人類の権利と言ったことに、人々は同意しようが、安全な水の言葉で世界は激しく分裂する。余裕のある層はデザイナーボトル水をがぶ飲みしてくれるが、国連によると世界人口の半分は基本衛生にかけている。この非衛生水により、年に 500 万から 1200 万人もの婦人、子供が亡くなっている。

青い惑星の 1% の 1/100 だけが人が使えるのだ。世界資源研究所(RWI)は 23 億人の方々は水不足の地域に住んでいる。専門家はアフリカの多く、北中国、インド中央部、メキシコ、中近東、北米の西部が深刻な水不足に直面しているとしている。世界の大都市でも、メキシコ市、バンコク、ジャカルタは地下水の帯水層から過剰に水をくみ上げている。

世界人口が増加しているので 2025 年には 2/3 の人々が水不足になる。この不均衡の大部分は工業式農業によるが生活水準と適正な水管理とが調和していないことにもよる。

ハーバード大学の研究者が指摘するのに、温暖化がまた、水利用を相当阻害するとしている。温暖化は蒸発度を高めることにつながり、日照りとか異常気象をもたらそう。どか雨が降る一方で地下浸透の遅延が続こう。温暖化が有害な藻や微生物の繁殖を促進し、より水による病気を引き起こす。気候がヒートアップすると、人々は水をもっと飲み、入浴し、散水しよう。先進国の方は日常飲料としてボトル水にますます目を向け、批評家にさらされるであろう。世界の飲料水は年間、7% ずつ、特にアジア地区に顕著にして消費が増えている。U.S. News & World Report は、ボトル水とフィルターの動きは持てる国と持たざる国とのギャップを引き離している、と結論付けている。Pendleton は、貧しい人は上水にもっと金をかけさせられよう、と指摘する。中国の多くの家族は収入の 10~20% を水にかけている。

多くの国では使用済みボトルのリサイクルインフラがないため、この容器が水資源への公害となってしまう。

世界は水危機に近づいている。水流域と行政の仕組みは起こってくる脅威から保護されねばならない。オフセット印刷ではかなりの量の水が使われていることに、気づいている方

は少なからず、おられよう。オーストラリアの会員、J. L. Lennard 社の Norm Fizell に感謝するが、各印刷機についての水の消費量(Waterless Currents2003年4 - 5月号参照)を示した。

この数字によると、菊全機2台と菊半才機1台を持つ中堅企業では、3交代勤務で102,000 ~ 120,000 リッターの水を年に消費する。その数百、数千倍もの使用が世界でなされていて、印刷業界だけでとてつもない水の消費がなされている。

幸いにして、成長著しい水なし印刷業者は水を一切使わず、水と混合する有害添加物をも使わない。

Classic Colours 社の UV 水なしインキが市場へ

Classic Colours の取締役 David Grey によると、Saharra Classicure は商業使用ができるようになった。UV 印刷業者の間で数多くの試験が行われた。David によると、「個別にある種の微調整が必要かもしれないが、基本的にはこの組成は最新のものとしている。

その製品はワックス、シリコンを添加しなくとも使える。この全品を日々注文ベースで受け付ける。パントン色、蛍光、金銀、ホワイト、などがある。UV 印刷に興味をお持ちの方は、David +44(0)1189 753066)まで、FAX をいただきたい。

できごと

Maryland 州 の Cheverly にある Fontana/Affiliated Graphics 社は WPA 会員としては始めて 2003 年プレミア印刷賞 Waterless Benny を受賞し、同時に、米国最高就労企業と認定された。これは the Master Printers of America の表彰と認定プログラムである。

今月は多くの入会者をいただいた。オーストラリアから Hampton Press 社(Mr. Tony Hampton)。12月、1月号のスペースがなく、日本の方々の掲載が遅れたことをお詫びしたい。

神奈川県茅ヶ崎市の藤沢紙工(株)の荒川豊様、東京都墨田区のグラパックジャパン(株)の飯田晴央様、相模原市のヒロ写真製版社の尾田敏雄様、京都市の河北印刷(株)の河北喜十良様、東京都品川区の(株)恒陽社印刷所の加藤晃司様、横浜市の(株)野毛印刷社の金子徹様、東京都江戸川区の小川印刷(株)の渡辺慶子様、札幌市の(株)プリプレスセンターの藤田靖様、東京都江戸川区の三巧印刷(株)の高木商克様、東広島市の山陽凸版フォームズ(株)の高橋伸英様、東京都板橋区の(有)盛伸社の尾形正樹様、大阪市の真生印刷(株)の柴田伯夫様、富山市の富山スガキ(株)の須垣貴雄様、静岡県の(株)エビス印刷の戸栗太平様です。

また、英国からは Finger Prints の Mr. A. Kerr と Northside Graphics Ltd.の Mr. Brian Crawford です。心から歓迎申し上げます。

作成 WPA・アーサー・ラフィーバー
日本語作成 日本 WPA・五百旗頭忠男